

史跡利神城跡整備基本計画策定全体委員会 会議議事録【概要版】
(令和5年度 第1回)

日 時	令和5(2023)年11月27日(月) 委員会 13:30~16:00
場 所	佐用町役場第一庁舎本館 301 会議室
出席者	<p><委員>※敬称略 任期：令和5年9月27日～令和8年3月31日</p> <p><専門委員></p> <p>小 野 健 吉 大阪観光大学 教授 北 垣 聰一郎 金沢城調査研究所 名誉所長 西 形 達 明 関西大学 名誉教授 福 井 亘 京都府立大学大学院 教授 水 島 あかね 明石工業高等専門学校 教授 藪 田 貫 兵庫県立歴史博物館 館長 (欠席) 山 上 雅 弘 兵庫県立考古博物館 名誉学芸員 (欠席)</p> <p><地元委員></p> <p>北 村 広 樹 佐用町観光協会 会長 竹 本 敬 市 佐用町文化財保護審議委員会 会長 五 名 和 雄 平福文化と観光の会 会長 中 島 基 生 大字平福管理委員会 委員長 中 野 直 樹 平福地域づくり協議会 会長 春 名 政 男 佐用山城ガイド協会 会長 (欠席) 西 尾 和 彦 智頭急行株式会社 運輸部 次長</p> <p><オブザーバー></p> <p>大 本 朋 弥 兵庫県教育委員会 文化財課 文化財班 主任</p> <p><コンサルタント></p> <p>奥 村 信 一 (株)都市景観設計 代表取締役 (欠席) 中 野 浩 幸 (株)都市景観設計 取締役 鈴 木 幸一朗 (株)都市景観設計</p> <p><佐用町事務局></p> <p>大 下 順 世 佐用町 企画防災課 課長 諏 訪 弘 佐用町 商工観光課 課長 笹 谷 一 博 佐用町 建設課 課長 井 土 達 也 佐用町 農林振興課 課長 高 見 浩 樹 佐用町教育委員会 生涯学習課 課長 浅 野 博 之 佐用町教育長</p>

	宇 多 雅 弘 佐用町教育委員会 教育課長 間 嶋 節 夫 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室 室長 中 村 剛 彰 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室 室長補佐 篠 倉 崇 泰 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室 文化財係長 谷 口 俊 廣 佐用町教育委員会 教育課 企画総務室
議事等	1. 委嘱状交付 2. 開会 (1) あいさつ (2) 出席者紹介 3. 役員選出 【資料 3-1、3-2】 4. 報告 (1) 史跡利神城跡保存活用計画策定後の経過報告 【資料 1、資料 2、資料 6、資料 7】 (2) 調査結果報告 ① 史跡利神城跡現況植生調査の結果報告 【資料 4】 ② 史跡利神城跡雨水排水調査の結果報告 【資料 5】 5. 議事 (1) 史跡利神城跡整備基本計画策定の主要検討課題について ① 史跡利神城跡整備基本計画の目次構成(案)及び現状と課題 【資料 3-3】 ② 史跡利神城跡整備基本計画 整備方針と主要検討課題(案) 【資料 3-4、資料 3-5】 (2) 意見交換 6. その他 ① 第 2 回策定委員会(全体会)の日程について ② その他 7. 閉会
配布物	・事務局提示資料(会議次第、配席表、出席者名簿、委員会資料)

— 議事内容 —

4-(2). 調査成果報告

① 史跡利神城跡現況植生調査の結果報告(資料 4 事務局・中村説明)

< 五名委員 >

- ・ 登山道に木の根が多く露出している箇所があり、樹木の生育の問題もあるのでどうにか対応していただきたいとの意見を山城ガイド協会の方からいただいている。

② 史跡利神城跡雨水排水調査の結果報告(資料 5 コンサル・中野説明)

< 西尾委員 >

- ・ 流出計算結果表の(3)について、弊社の線路のところということで、佐用の水害の際、水の他にも土砂も流出しており、そのあたりが心配である。排水関係について相談できればと思う。

< 北垣委員 >

- ・ 近年日本の各地で線状降水帯などの異常気象がたびたび起こっている。おそらくこれから全国的にこの問題が出てくるのではないかと。今回の雨水排水処理調査で様々な問題が具現化してきたためそれに対応できる対策をどうするか。それが重要ではないか。

< 西形委員 >

- ・ 城内の水の排水についてどのような対策を考えているのか。

< コンサル・中野 >

排水路をつくとその先をどう流すかという問題になり水が集中してしまう。そのため基本的には広く分散させるしかないと考える。ただし分散させた先に排水しづらい箇所が出た場合、大きな排水路は確保する必要がある。また土砂災害警戒区域についてもヒアリングの結果、土木のほうでは、補助も含めて対策はあまりないためそちらも検討が必要。

5. 議事

(1) 史跡利神城跡整備基本計画策定の主要検討課題について

① 史跡利神城跡整備基本計画の目次構成(案)及び現状と課題(資料 3-3 コンサル・中野説明)

② 史跡利神城跡整備基本計画整備方針と主要検討課題(案)(資料 3-4, 3-5 事務局・中村説明)

< オブザーバー・大本 >

- ・ 目次構成で第7章は今回の議論の中心ということで手厚く目次立てされているが、7章を検討する前段にあたるのが5章。その箇所において現状と課題をそれぞれ明記したのを受けての7章となるため整備計画に触れるなら現状と課題について触れたほうが良いと考える。
- ・ 植生調査や雨水排水調査が目次では参考資料という位置付けになっている。そのため全体構成の中で位置付けをしておいたほうが後々の展開を考える上で重要になってくると考える。
- ・ 整備にあたって、モノレールは工事の際のみ設置か、工事後も管理動線として使用するのかといった位置付けを議論の際に留意していただきたい。
- ・ 今後の進め方について、7章の議論は前提として、1~6章について次回以降各委員に共有しながら進めることができると思う。

<小野委員>

- ・ 整備方針と検討課題にある体制づくりや仕組みづくりについて、これらを念頭にして計画を立案することは重要ではあるが、整備基本計画に入れる内容ではないのではないか。
- ・ 目次案について、1～6章をもっとコンパクトにまとめられるのではないか。
- ・ 目次案7章記述の各地区の整備計画内にある「(3)公開・活用に関する計画」について、内容についてはガイダンスやサインや便益施設等に触れると思うが、そうすると7・8と内容が被っている箇所があるため、目次の中で重複する項目があるように感じたので、整理してわかりやすい目次構成をお願いしたい。

<水島委員>

- ・ 資料3-4の3でファンの育成や情報発信について記述されているが、それらの予定を資料3-5のスケジュール構想に載せることはできないか。
- ・ 現在行われているガイド付きでの山城ツアーの際トイレ等の便益施設の需要はどこまであるのか。そして山城ツアーの参加者からトイレ等の便益施設についての意見を組み上げてファンを増やせるような取り組みを資料3-5のスケジュールの中にもうまく載せることはできないか。

<福井委員>

- ・ ガイドの方にヒアリング等はされているのか。

<事務局・諏訪>

商工観光課ではガイドの方に上部でトイレが必要であるかを伺っている。現状ではトイレが必要になった場合は少ないようだが、登山の時間が4時間程度のためガイドの方からもあるに越したことはないと伺っている。

<西形委員>

- ・ 資料3-4の1.整備方針の項目で「石垣を、非解体を原則により良い現状保存を図る」とあるが、この文章を明文化していただいて非常に素晴らしいと思っている。そうすると崩落してなくなった石垣を含め、石垣の再現は基本的に実施しないという見解でいいか。

<事務局・中村>

現状では石垣がどこにあったかについての調査は実施するかもしれないが、復元についての調査は現状では考えていない。

<西形委員>

- ・ 「恒常的なモニタリングができるシステムの導入」とあるが全国の山城、平城では前例がないと思うので是非考えていただきたい。

<事務局・篠倉>

現在検討しているのはカメラ等による遠隔監視や、センサーによるリアルタイム監視である。ただ現状ではこのような技術はまだ民生化されていないため、もうしばらく技術の発展を見たらうえて検討できればと考えている。

<小野委員>

- ・ 資料3-5の色分けされている整備事業について、山城中心地区の地盤低下石垣修理工事が喫緊であり、それに伴いモノレールの設置が先に実施されていることは理解している。

ビュースポットの整備についても、もう少し早めを実施し、利神城の特徴、特性をアピールしていくほうが良いのではないかと。

- ・ スケジュール構想の整備工事について「発掘調査・実施設計・整備工事」とあるが、それらが具体的にどれぐらいの期間かかるのか色分けなどをして示したほうが良い。また実施設計の前段階で行う様々な調査も同じように書き込むべき。

<福井委員>

- ・ 以前ビュースポットを抽出し利神城がどこからがきれいに見えるかという話をしたが、今回の計画は城が中心だが、景観を考えると、樹木の剪定などが関わってくるためもう少し広い範囲で見ることが大切である。そこをどう整備するかが抜けているので足していただきたい。
- ・ 登山道周辺の植生調査を簡易的で構わないので実施していただきたい。計画に基礎調査として記述すれば山岳ガイドの方々も使いやすくなる。

<五名委員>

- ・ 旧因幡街道沿いの電柱などが写らない峠に昨年ビュースポットを作った。その他にもビュースポットはたくさんあると思うので、計画的に考えていって、観光資源という形で進めてまいりたいと思う。
- ・ 平福駅の北側の南石塁周辺で遺構が発見された。そこを改修するときには、できれば昔の遺構を残していただければ観光資源になるかと思う。山城だけでなく御殿屋敷跡のほうもぜひとも進めていただきたい。

<事務局・中村>

御殿屋敷の整備については、来年度、地中レーダー調査ということで南石塁の欠失している西側の延長線上の調査を現在計画している。

<福井委員>

- ・ 景観について地元の方々には様々な場所をご存じであるため、それを踏まえてビューポイントをピックアップし、そこから見える城をどう見せていくか。そしてそのための管理動線等の整備をどうするかがポイントとなるので、しっかり検討していただきたい。

<水島委員>

- ・ ビュースポットについて、登山道からのビュースポットの設置を検討してもいいのではないかと。そして、登山道から町並みがどう見えるのかというところで、平福の町並みがよく見える場所や、場合によっては手入れをして眺望を確保するなどの検討もしていただきたい。

<事務局・中村>

次年度に登山道の現況植生調査の実施を予定している。樹木医の方には景観的な視点から見た植生課題について依頼しようと考えている。

<小野委員>

- ・ 史跡内のどこにビューポイントを設けるかは、樹高の調整等といった整備をする必要が出てくるのでしっかり検討していただきたい。

<中野委員>

- ・ スケジュールとしては3年かけて計画を進めていくのか。その間は整備的なものは実施しないのか

<事務局・中村>

目に見える整備は資料 3-5 にあるとおりの状況だが、その前に調査等を実施して準備していきたいと考えている。あとは利神城かわら版を毎月発刊しており、そこで整備の状況を発信していきたい。かわら版についても、公共施設の掲示板等にも掲示していきたい。

<中野委員>

- ・ 排水機能が無いヒューム管や水路の整備等についてはスケジュールが決まってから着手するのか。もしくは事前に障害物を撤去する等の計画はあるのか。

<事務局・中村>

雨水排水調査により課題が見つかったため、次にどうするかを今回計画立てていきたい。ただ具体的なことは検討していないため、智頭急行や工事の専門家と協議して検討していきたい。

<中野委員>

- ・ トンネルの上からの落石があった。石が線路上に落ちていたら大きな事故になり得る可能性があるため、もう少し強固で背の高い柵を考えられたらどうか。

<北垣委員>

- ・ 雨水処理には考え方が二つあるのではないかと。まず一つに、史跡としてどういう排水経路を持っていたのかとどこまでわかっているのか。もう一つは都市公園の観点から見たときに見学者を対象とした排水施設と往時の排水施設を線引きする中で活かせるものは活かしていくことは大切である。史跡という枠の中で考えると現実の問題と異なることがあるので、そのあたりの線引きをすることが大切である。鉄道の問題も含めて早いうちに方向性を出しておいたほうが良い。
- ・ ここでは西山石と東山石の 2 種の石材が使用されている。これらの石材は時代が峻別できるものか。また、西山石と東山石がこの城郭の成立年代とどのようにしてかかわってくるのか

<事務局・中村>

天守周りと馬場の一部が宇喜多期の段階、池田期がその他の部分ではないか。池田期の石垣の段階については発掘調査を実施しており、山の上と下がリンクしていることは分かっており、石垣についてもほぼ同じ石質である。ただ、石垣カルテを調べてみると、意外と石材が混じっている。古い段階の石材が池田の段階で混ざってしまったようで、東山石が天守や馬場に使われると言われているが、そうであるとは言い切れない。石質だけでなく石の使い方という面で大きく二つの時期に分けられるのではないかとこの考え方はこれまでも言われている。

<北垣委員>

- ・ 全国の城郭を見ても 1 つの石材で時代が特徴づけられるということはそう無い。それは利神城跡の本質的価値と言える。そのため三の丸出入口にある 2 種の石材が重なった石垣をはじめとした、特徴のある石垣を区別して説明することは大切である。またこの特徴をできるだけ早いうちから意見の中に入れていける材料にならないだろうか。検討していただきたい。

<事務局・谷口>

中野直樹委員からのご質問に対する回答について少し補足すると、落石の話に関しては利神城を形成する石が落ちてきたということではあるが、これは早急に検討すべきだというふうを考えている。

<中野委員>

- ・ 雨水排水調査報告書の写真(5)の場所は雨が降ると雨水が側の道路まで溢れる。堆積土が原因だと考えるがどうお考えか。
- ・ 登山客が野生動物と遭遇する危険があるため、理想ではあるが登城路に獣害柵の役割がある物の設置を検討できないか。

<中島委員>

- ・ 山城に上がることができない方のために道の駅などで登った気分になれるようなビデオ映像やVRでの公開など、登城をしなくても楽しめるような取り組みを検討していただきたい。

<五名委員>

- ・ 往時のつづら折りの登城路について、整備の予定はあるのか。山城好きに需要があるように感じたため計画に盛り込んでもいいのではないか。

<事務局・中村>

先ほどの話については福井委員からも伺っているが、出来るかとはともかく検討の必要はある。ただ以前ガイド協会の方と共に登ったことがあるが、最後の方は四つん這いで登っているような状況であったという現状は理解していただきたい。

<竹本委員>

- ・ 平福の歴史を読み取ると面白い歴史がたくさんある。しかし整備計画を読んでいると北垣委員がおっしゃっていた石材のここのような、もう少し面白く興味の持てる話題が欲しいと思った。そのため町民、主に小中学生が興味を持てるような話題を織り込むことができないか。また先ほどの話題にもあった映像を利用してバーチャル的に啓発していくことも検討すべきではないか。

<福井委員>

平福の歴史の面白さというところは竹本委員のような方に発信をしていただけるとありがたい。ぜひ、委員会のほうでも意見を言っていたきたいと思う。地元委員の方にはこれからもどんどん発言をしていただきたいと思う。

<西尾委員>

- ・ ツアー以外の登城が禁止されていることを知らない方が線路をまたいで登城しているという情報が入ったので、そのあたりの安全面の配慮と、ガイドなしでの登山は禁止であることをさらに広く周知できればいいのではないか。
- ・ 御殿屋敷地区の今後保護を必要とする範囲についてスケジュール的にはどうなるのか。

<事務局・中村>

現状では、まず先に史跡指定地範囲内への整備を行う予定である。西尾委員がおっしゃっている場所も放置するわけではないので今後何かあれば考えていきたい。

<水島委員>

- ・ 智頭急行側から車内アナウンスでの利神城跡の宣伝などのアプローチができないか。

<西尾委員>

- ・ イチョウの木についてのアナウンス等を出しているので、今後実施しようと思えば可能ではある。

6. その他

(1) 第2回策定委員会(全体会)の日程について

- ・ 第2回の策定委員会は来年度6月ごろを予定。その間には専門委員会の開催を考えている。

(2) その他

<中野委員>

- ・ 先ほどの登山客が線路をまたいでいたということについて、線路の東側に土地を持っている方が東側に行くことがあるそうで、たまたまそういう方を見てそこに観光客もいたのではないかと。ただ、もし危険ということであれば立て看板的なものを立てられたほうがいいのではないかと。

<五名委員>

- ・ 大阪万博の開催につき、兵庫県も観光客の誘致を計画しており、平福地区もその候補地となっているようで、平福のメインとなっているのは平福駅と道の駅である。京都の長尾のように万博の時期に合わせて花が開くように植えることはできないかと考えている。

7. 閉会



委員会状況